

渋沢栄一ツアー — 3

細田木材工業(株)

顧問 細田 安治

誠之堂せいしどうと清風亭せいふうてい

誠之堂と清風亭の2つの建物は、深谷市で生まれた渋沢栄一にゆかりの深い建物であり、誠之堂は平成15年、国の重要文化財に、「清風亭」は平成16年、埼玉県指定有形文化財に指定された。ともに建築史上、貴重なそして重要な文化財にふさわしい建物である。

□誠之堂

まず誠之堂からご紹介すると、命名は栄一自身によるもので、儒教の代表的な経典の一つ「中庸ちゅうよう」の一節「誠者天之道也 誠之者人之道也」(誠は天の道なり、これを誠にするは人の道なり)にちなんだもの。大正5年(1916)栄一の喜寿(77歳)を記念して第一銀行の行員たちが出資して建てたものだ。行員の出資とは、今では信じられない美談であると思う。総合設計は当時の建築界の第一人者田辺淳吉である。「西洋風の田舎家」「30坪前後」という栄一の希望に沿いながらも独自の発想が凝縮したものだという。

□木骨煉瓦造り

この建物は「木骨構造の煉瓦造り」とガイドから聞いた時、「木骨煉瓦造り」とは何だ?とピンとこないので質問したところ「木造煉瓦造り」との答え、なるほど「木造土壁造りつちかべ」から「木造モルタル造り」と同じジャンルに入るのでは。湿式工法の竹小舞いに左官屋さんが鋺を使って仕上げる工法の「土」から「モルタル」に進化、次は乾式工法のサイディングボード壁となるが、当時は、外壁が煉瓦使いなので「木骨構造煉瓦造り」と称している。これで納得がいった。しかし、この煉瓦造りは凝りに凝った見事なものだ。

□正面の「うだつ」を思わす小屋根は、明り取りでもなく機能的な働きでもなく

建物に威厳を持たせるため、シンメトリー(左右対称)を強調する目的で作ったと言うが、イギリス農家の小屋根と、日本農家の「うだつ」(いろりの上部空気抜き)と(「うだつが上がる」縁起かつぎ)の間に共通することがあったのではと期待したが「お飾り」のみとの解説であった。筆者はお飾りだけでなく、きっと意味があるはずだが聞きだせず残念だった。



誠之堂全景



煉瓦文字喜寿

□喜寿文字の煉瓦積み

大正5年(1916) 渋沢栄一喜寿(77歳)を記念して建物の北側に、二階妻側には「誠之堂」、一階の壁を広く使い煉瓦積みの濃淡のある煉瓦を巧みに並べた煉瓦文字の「喜寿」は見事なものだ。外壁全体には色違いの煉瓦で装飾性と変化をリズムカルに創り出し素晴らしいものである。これだけでも見に来た価値は充分とあるのではないか。

□煉瓦に二つの細工

①色むら煉瓦の小口面に、1枚ずつ1センチ程度の凹凸をつけ、出入りを規則的につけ色違いと出入りで立体的に外壁を表現としている。

②1枚1枚の煉瓦に、「上端」を大きく「面取り」してある。芸術品のような煉瓦であった。ガイドさんからこの「上端面取りは何のためか」と逆に質問された。筆者は「水切り」ではないかと答えた。正解であった。この煉瓦は、前号でレポートしたが、渋沢栄一が深谷に設立した日本煉瓦製造製と聞いた。もっとも面取りは左官屋さんが取り付ける時に削ったのであろう。雨が当たっても、雨水が煉瓦の目地底に溜まらず流れていく水道仕掛けである。昔の人の智慧はすばらしいと感動した。

今はこんな煉瓦にお目にかかることはなく、製造もしていない。日本煉瓦製造も時代の波に押されて昭和43年(1968)に約120年続いた歴史に幕をとじた。

□ステンドグラス

玄関を入ると、大広間の窓に森谷延雄作の絵模様のステンドグラスがはめ込まれてある。漢代の貴人の使者、供応する人々のなかの貴人を栄一に見立て、栄一の喜寿を祝う情景を現しているのではと考えられる。前述の喜寿の煉瓦積みと並び、建物全体で栄一の喜寿を祝う仕掛けになっているところが、田辺淳吉設計の素晴らしいところだ。

□玄関・下屋・天井

入り口の階段を上がると、正面玄関の大きく張り出た下屋は、「ちょうな」で「殴った」複数の装飾名栗柱で確り支えられている。南、東側に鍵型の左右対称の小ベランダベンチは、背もたれに栗材を使い、和洋折衷の建物に高級感を演出している。嬉しいぞ。ここに「栗の木」「ちょうな」「名栗」がでて来た。

白い玄関天井は、柱、梁などを現し(外部に表れている)造りのハーフティンバー方式の変形で、昭和



煉瓦に細工



ハーフティンバー方式の変形



大広間のステンドグラス貴人供応の図

初期にはこの方式が流行したという。ここで「木骨」^{もっこつ}がでて来た。

□大広間の天井

円筒型の丸い天井はヴォールト天井^{しゅくい}(漆喰天井)と言う。朝鮮風の装飾彫刻は3種類、1.「丸に壽」は慶事を喜び祝うこと、2.装飾廻り縁の「松葉」は常緑と新生のシンボルとしている。3.「雲鶴」^{うんかく}は「瑞鳥」^{ずいちよう}の鶴と雲を組み合わせたものと言う。

□次の間 網代天井^{あじろ} 嬉しいね。ここでも数寄屋造りの様式を採用している。

□誠之堂

もともと第一銀行の保養施設・スポーツ施設「誠之堂」、「清和園」として、東京都世田谷瀬田の敷地内に建てられていた。平成9年両建物が取り壊しの危機に瀕した時、深谷市は両建物を譲り受け、深谷市内に移築復元することを決めた。このような煉瓦建造物の移築は稀であり、移築方法は煉瓦壁を大きく切断し、搬送し移築先で組み直す「おおばらし」を応用した日本初の工法を採用し、平成10年2月から約2年間の解体・復元工事を経て平成11年8月に移築完成したものである。

ちなみに、工費はいくらかかったかと、深谷市の職員に質問すると「約2億8千万円かかった」とのことである。深谷市の当時の市長「今成守雄氏」が決断したとのこと、尚今成市長はこの案件について即決断したとのこと。素晴らしい快挙である。決断は、日本全国民から高く評価されなければならない。

□ガイドさんとのコミュニケーション

現地にはガイドさんが常駐し解説してくれる。筆者はガイドさん大好き人間で解説を聞くのが楽しみである。当たり前のことだが、現地で現物を見ても、資料と照合しても、解説を聞かなければ、文化財のよさ素晴らしさを実感できない。深谷市と市長の快挙はガイドさんの話がヒントとなって質問を思いつき、聞きだすことができた。ここでの教訓はいかに「聞くことが大事か。コミュニケーションが大事か」である。ここで紙数が尽きた。まだまだ渋沢栄一は語りつくせない。続く



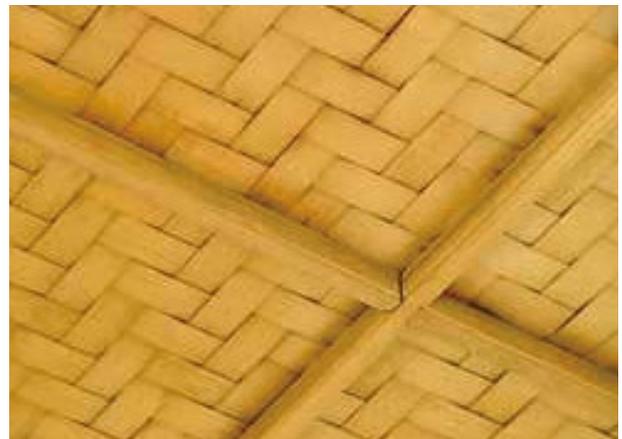
1円筒型漆喰天井（ヴォールト天井）



雲



鶴



杉柁網代天井